令和４年度　山形県立新庄神室産業高等学校　学校評価書

１　教育目標（めざす生徒像）	２　めざす学校像	３　学校経営方針
(1)幅広い知識と技術を身に付け、地域社会と産業の発展に寄与する人間の育成 (2)柔軟な思考とたゆまぬ実践により、真理を探究する人間の育成 (3)個性を尊重し、豊かな感性と創造性に富む人間の育成 (4)心身ともに健全で、正義感あふれるたくましい人間の育成	(1)規範意識を高めるとともに、社会性を育み自ら進んで行動する力を育成する学校 (2)基礎学力の定着と向上を図るとともに、生徒個々の進路実現に向けたキャリア教育を実践する学校 (3)特別活動を充実させるとともに、心身の健康と安全に努める学校 (4)地域と積極的な交流を図るとともに、地域の活性化に貢献する学校 (5)積極的な情報発信を行うとともに、有益な情報の共有を図る学校	(1)「いのちをつなぐ」人づくり 自尊感情を高め、多様性や個性を受け止め、他者の生命や生き方を尊重し次世代に繋ぐ人づくりを行う (2)「学びを生かす」人づくり 自ら考え、主体的に判断し、柔軟かつ的確に課題解決できる人、多様な他者と協働しながら新たな価値を生み出し、学びを人生や社会に生かす人づくりを行う (3)「地域をつくる」人づくり 地域を愛し、地域の課題を主体的に捉え、地域の人と協働し、地域の未来をつくる人づくりを行う

【達成度・評価】　Ａ：達成　Ｂ：概ね達成　Ｃ：やや不十分　Ｄ：不十分

	重点目標	具体的方策と指標・基準等	自己評価			学校関係者評価	
			目標の達成に向けた取り組み状況と分析	達成度	成果と課題　次年度に向けた改善策	評価	意見・要望等
（１）「いのちをつなぐ」人づくり	① 互いのいのちを尊重する	○いじめ絶無を目指す。 ○良好な人間関係の構築を目指す。	○いじめ・体罰について、アンケート集約や個人面談を実施するなど学年、学科の協力を得ながら、粘り強く指導したが、いじめ絶無にはいたらなかった。 ○１年生と連携してグループワークトレーニング(GWT)を２回実施、ソーシャルスキルトレーニングは９月まで実施することができた。人間関係づくりに役立てることができた。	B	○いじめとして把握できたものは迅速且つ継続的に指導できた。今後もいじめアンケート・面談を継続実施し各分掌間の連携を深め、いじめの早期発見と根絶を目指す。 ○ソーシャルスキルはトレーニングドリル等の活用を図る。	B	○いじめについては、早期発見早期対応が重要でありますので、生徒へのアンケートや先生方の情報共有等により、引き続き尽力いただきたい。 ○出席率については新型コロナウイルス感染症の影響もあり、未達であったようですが、概ね目標値に近い結果であったことは、感染症対策への取り組みの成果と思います。これを機に出席停止になる生徒への学習フォローの仕組みづくりを進めて欲しい。 ○「いのち」の教育は最重要と考える。自他の生命を尊び、社会の中で「生きる」ことのできる人づくりをお願いしたい。生徒間の関係に目をくばり、全員卒業を目指してもらいたい。 ○いじめについて引き続き改善に向けてご尽力ください。また、基本的生活習慣づくりへの評価もぜひ行っていただきたい。 ○いじめの対応として多様性を受け入れお互いを尊重できるような指導が必要である。また外部機関の活用や生徒が受け入れやすい教材の利用等を検討してもらいたい。
	② 基本的生活習慣を身に付け、社会の一員としての自覚を深める	○出席率99.5%を目指す。 ○ふれあい指導（年4回）を実施する。 ○ＳＮＳ関連の問題行動の根絶を図る。	○出席率98.5%である。（含長期欠席者）コロナ対応で出席停止になる生徒も多く、学習の遅れが気になるところである。 ○ふれあい指導の実施を通し、挨拶の励行や生活リズムづくりの向上を図ることができた。 ○問題行動の発端が、ほぼＳＮＳに関連したもので、根絶を図ることはできなかった。	B	○出席率の向上を目指し、健康管理と安易に学校を休まない指導が課題である。 ○新庄警察署によるSNS関連の講話を受講することで、情報モラルの注意喚起ができ、継続し実施する。 ○教科「情報」を代替する授業を通して、生徒のコンピュータリテラシー向上を図る。	B	
（２）「学びを生かす」人づくり	① 生きて活用できる知識・技能を着実に習得する	○授業評価アンケート（年２回）を行い、わかる授業に努める。 ○一人一台端末を活用した教育活動を実践する。 ○ＩＣＴ活用の研修会（年２回）と研究授業を開催する。	○授業アンケートを2回実施(7月/12月)し、改善点を見つけ対応することが出来た。 ○グループワークトレーニングや生徒指導に関する講話、スタディサプリの問題配信等、ICTの活用を図ることができた。校内ネットワーク環境の拡充を行った。 ○教職員向けのChromebook研修会を３回実施し、全教科でICTを活用した研究授業をおこなった。	B	○デジタルコンテンツを活用した教材作成や取り組ませ方の研究を継続して行い、日々授業改善に努めていく。 ○ICT機器の活用については、少しずつであるが、教員サイドの力量が上昇している。 ○生徒の中には、忘れたり、うまく使いこなせないこともあり、Chromebook使用の習慣化を図る。	A	○コロナ禍の中、学習の場の設営や対外的な発表会等におきましてご苦労が多かったことと思いますが、当初計画された取り組みが実行され目標を達成されたと思います。 ○ＩＣＴの活用は今後も協力に推進する必要があり、指導者のスキル向上も必要である。 ○キャリア教育の推進について、関係機関と連携して力を入れていることが分かる。今後も外部講師の招聘や地域企業との関わりを積極的に進めていけるよう、さらなる連携の深化が図られることを期待する。 ○高校の三年間は社会に出るまでの訓練の場でもあり、部活動や研究活動など、やりがいを持ってやり遂げる等、充実した三年間を過ごさせて欲しい。 ○多くの資格取得に取り組んでおるが、合格率の向上への取り組みをお願いします。また、ドローン等の最新の技術に触れる取り組みをお願いしたい。 ○研究発表等で各学科の特色を生かした研究に取り組んでおり、継続研究も多いように感じた。さらなる研究の飛躍を期待します。 ○キャリア教育について、地域からの理解を得ることが重要である。 ○幅広い進路選択に対応するために県内の上級学校の視察や進学者へのサポート等も検討してもらいたい。 ○外部との連携を強化し産業振興の学びに生かしてもらいたい。
	② キャリア教育を充実させる	○産業視察や社会人招聘講話を実施する。 ○インターンシップ（２年）を実施する。 ○資格取得や各種検定の推進と合格率向上を目指す。 ○教職員の外部研修への参加を推進する。	○１年次に民間企業や農林大学校の視察や社会人による講話を実施し、各学科の学びの価値や役割の認識を図った。 ○2年次に、インターンシップを感染対策に留意して実施した。3年次は、中長期インターンシップを通してより専門性の高い業務を体験することができた。 ○各教科、各学科に関連する各種検定の受検を推進し、合格率向上を目指した指導をおこなった。	B	○生徒が進路について考える機会を確保するために、企業や上級学校の視察を継続し実施する。 ○パートナーシップ協議会を基軸として、インターンシップ等の就業体験を支援する。 ○資格取得に向けた計画的な指導や外部講師招聘事業による継続したキャリア教育の推進を図る。	A	
	③ 主体的・対話的で深い学びを推進する	○公開授業と授業研究を年間２回実施する。 ○課題研究がより高度な内容に高められている。 ○学習成果発表会を開催する。	○公開授業(5月/11月)、校内授業研究会(10月下旬～11月上旬)を実施。 ○地域等と連携を図りながら各学科の特色を活かした課題研究を行うことができた。 ○学習成果発表会では中学生や教育後援会賛助会員を招いて開催し、学習成果を披露することができた。	B	○校内授業研究会は15名の先生からICTを活用した研究授業をしていただき、一定の成果は得られた。 ○ゆめりあ鉄道のまち創造プロジェクトの継続 ○各科毎・研究発表会の場で生徒の大きな成長が窺えた。	A	

（３）「地域をつくる」人づくり	① 郷土・地域を理解する	○地域課題の解決をテーマにした課題研究等へ取り組む。 ○ジモト大学と連携による地域課題の発見と解決に向け主体的に取り組む。	○課題研究で地域との協働や地元の課題を解決するテーマが多かった。「ゆめりあ鉄道創造プロジェクト」に機械電気科と環境デザイン科が協働し取り組むことができた。 ○プログラムの内容によっては偏りがあったが、ジモト大学に積極的に参加するなど地域に視点をあてた学習の心構えができた。	B	○地域の課題を主体的に捉え、生徒たちにとって活動しやすく意義ある講座にするため外部との連携を深めていく。 ○地域産業及び職業特性に対する理解を深めるために企業経営者による講話を継続していく。	B	○プロジェクト発表会においては、どの発表も地域の課題をテーマとして取り上げ、地元の方から直接聞き取るなど、学びを深めていたと感じた。 ○先生方の苦労は多いと思いますが、地元の産業高校として、引き続き積極的に取り組んでいただきたい。 ○広報のツールはチャンネル（媒体）が豊富なほど効果があると思います。ＨＰだけ、広報誌だけでなく、様々な媒体の活用を検討していくことで、より広がりが生まれてくると思います。 ○郷土の良さや地域の産業をを十分に理解し、将来は地域の後継者として地域の発展に取り組む人材の育成を目指してもらいたい。 ○地域との連携した活動は、将来に大きく役立つことと思います。今後も継続していただきたい。 ○地域を知る教育や取り組みを大事にしていただきたい。ジモト大学への参加に期待します。 ○情報発信の手段としてＨＰに加えＳＮＳの活用を検討していただきたい。 ○産業高校として地域との関わりをこれまで以上に積極的におこない、地域活性化につなげて欲しい。地域とつながることで社会性や郷土愛を身につけることができると思う。 ○生徒の活動が見えず地域の方や中学生への広報活動が十分とは言えない。ＳＮＳ等の利用を促進し部活動や行事等の生徒の活動をもっと発信する体制等を検討してもらいたい。
	② 郷土・地域と連携する	○PTAによる年2回の挨拶運動をおこなう。 ○PTA広報誌「神室峰」を発行（年２回）する。 ○専門学科通信「未来の風」を発行（年４回）する。	○ＰＴＡ、青少年指導センターによるあいさつ運動に積極的に参加いただき、身だしなみやあいさつの現状に好評を得た。 ○ＰＴＡ広報誌を年２回発行することができた（２回目は2/28発行予定） ○専門学科通信「未来の風」を５号発信し、学科の取り組みの情報発信をすることができた。	B	○生徒と保護者の関わりを深められ、挨拶の必要性を再認識することができた。 ○地域の企業や自治体と連携した商品開発や研究開発を、実用化・商品化を目指し継続して取り組む。 ○各種広報誌を発行し、本校の取り組みを広くPRできた。	B	
	③ 郷土・地域等に発信する	○ホームページを50回以上更新する。 ○さくら連絡網を活用した保護者への情報提供（学年通信等）を積極的におこなう。	○全体としてHPの更新を50回以上行ったが、学科等では偏りがあった。 ○さくら連絡網を活用してクラス通信の配信やアンケート調査を実施し回答率が向上した。	B	○HPの充実を図るため担当や体制の見直しを図る。 ○さくら連絡網の活用をおこなったが、さらに充実した活用を図るため、保護者への周知を徹底する。	B	
（４）「学校経営全般」	① 次代に向けた学校づくり	○ＩＣＴを活用した新しい学びを実践する ○令和6年度の商業科新設にむけて目指す生徒像の具体化と教育課程の編成、教育基本計画を策定する。 ○各大学科によるスクール・ポリシーを策定する。 ○創立20周年記念事業の開催に向けた万全な準備と記念行事を成功させる。	○ICTを活用した校内授業研究の取組みを実施し、ICTの活用促進を図った。 ○令和6年度の教育課程の編成を行い、教育計画書を作成し、一部修正を図りながら完成を目指している。 ○創立２０周年記念事業を実行委員会を中心に準備を進め、滞りなく実施し、成功裡に終えることができた。	B	○校内授業研究をきっかけに授業でのICTの活用が充実してきた。今後も継続してICTの活用を図る。 ○令和6年度の商業科新設に向けた事前準備と中学校への広報活動をする。 ○次の周年に向け本校の強みを活かした特色ある取り組みを目指す。	B	○新型コロナウイルス感染症への対応は、感染者ゼロの目標は達成できなかったが、考えられる対応を全て行っての結果ですので仕方がないと思う。 ○学校評価アンケートにおいて、生徒、保護者ともに「本校に入学して良かった」、「産業高校として特色ある教育を実践している」、という質問に肯定的な回答が多く、学校経営が良好なことが反映されていると感じた。引き続き積極的な取り組みを継続していただきたい。 ○令和６年度の商業科新設に向け様々な関係機関と連携を図り、より良い学校づくりに取り組んでいただくことを期待しています。 ○生徒の確保が最も重要になると思いますが、地域で活躍できる人材育成につながる学校運営を進めていけるよう協力していきたいと思います。 ○将来、新庄最上地域に県立高校が二校になるであろうと言われるなか、産業高校は大きな役割を担っている。少子化ではあるが地域産業を支える人材を育成する使命を自覚してもらいたい。地域発展に必要な学校でありますので、今後も協力していきたいと思っています。 ○本校を理解してもらうために。地域や中学生に対して積極的にＰＲしていかなければならないと思います。新聞等に本校の活躍が掲載されますが、現在はＳＮＳでの発信が必要です。また、小中学校への出前授業等をおこなうなど、本校を知ってもらう機会を設けていただきたい。 ○新型コロナウイルス感染症への対応について、今後もよろしくお願いします。 ○業務改善の効果を感じます。継続して取り組んでいただきたい。 ○成人と非成人が混在する状況となり共通認識を持たせるのことは難しかと思うが、成人としての意識が高まる取り組みに期待します。 ○ＳＮＳ等を活用した情報発信は、学校理解が深まり、さらに学校の活性化につながると思う。 ○普通科ではできない体験ができるという専門高校の強みを生かすと共にぜひＰＲすべきである。 ○業務改善による効率化は教員が生徒に関わる時間が増え、生徒との信頼関係構築につながると思います。
	② 「新しい生活様式」にもとづく学校経営	○基本的感染対策に生徒が主体的に取り組む態度を身に付け感染者ゼロを目指す。 ○非難訓練及び安否確認訓練を実施する。	○マスクの着用は概ね達成できた。検温入力については、徹底しきれない部分があった。また、一部クラスターが発生してしまった。 ○地震による火災の想定、ｊアラートを想定した避難訓練を実施した。また、大規模災害を想定した安否確認を実施した。	B	○新型コロナウイルス感染症対策を状況に応じて適切に対応する。検温入力を継続して呼びかけ徹底させる。 ○多様な災害に対応した避難訓練と安否確認を実施し、命を守る行動ができるようにする。	B	
	③ 働き方改革にむけた業務内容の見直し	○組織の体制と事業を見直し、業務のスリム化を図る。 ○会議資料の事前配布や会議の紙面開催、ＩＣＴの活用により業務の効率化を図る。	○業務改善を目指し、組織体制の見直しや生徒の日課の改善、会議の紙面開催を行い業務のスリム化を図った。 ○会議資料を電子ファイル化し、ICT活用による業務の効率化を図った。	B	○会議の時間短縮と効率化が図られ、電車時間に間に合うことや、部活動の時間が早まるなどの成果があった。 ○事業や体制を見直し、働き方改革を進める。	B	
	④ 主権者意識を高める教育の推進	○18歳成人への対応として選挙や租税等、社会の仕組みを理解する取り組みを実施する。 ○学校行事や生徒会活動への積極的な参加により成人として社会を生きぬく態度を身に付けさせる。	○18才成人への対応として、２学年で選挙啓発出前講座及び消費生活出前講座を計画・実施しすることができた。３学年で労働関係法規の講習会を実施した。 ○コロナ禍で制限のある中、田植え競技会、体育祭と学校祭は２日開催で実施でき、生徒の自己有用感を高めることができた。	C	○18才成人への対応を継続実施し、成人としての意識向上を図る。 ○感染状況をふまえながら学校行事を実施し、生徒の成長と生徒会の活性化を図りたい。	B	
	⑤ 個に応じた支援体制を充実させる	○ABC委員会の開催と、適時のケース検討会を開催する。 ○生徒・保護者との面談を実施し、長期欠席者と進路変更者の絶無を目指す。	○ABC委員会は定期的に、ケース検討会を適宜開催し、SCと連携し組織的な対応ができた。 ○必要に応じ適宜生徒･保護者と面談を行い問題解決に努めた。	B	○個々に応じた支援内容を、ABC委員会やケース検討会で相談、情報共有を行い組織で対応していく。 ○長期欠席者と進路変更者の絶無を目指すためにも、各分掌と連携し対応していく。	B	